

2021年度 附属中学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性を育み、社会に貢献できる青年を育成する」という建学の精神をもとに 21 世紀を生きる子どもたちが知的社会で必要とされる「複雑な問題に対する解決能力」「クリティカルシンキング」「創造性」などの人工知能にはできない人間味のあるスキルを身につけるための教育を推進する。そのために、授業の形態ではなく「今何をしなければいけないのか」「どのような行動をとるべきなのか」を考えて学ぶアクティブラーニングを推奨する。しかし、その根底として我が国の教育を支えてきた「座力の育成」を教育の「不易」なものとして捉え、アクティブラーニングと対局をなすパッシブラーニングに対しても否定するのではなく、「流行」に流されることなく「座学」を確立し時代の変化に対応できる生徒を育成する。附属中学校においては「基本的生活習慣」の育成と定着(座力の育成)が将来の高校生活の基盤を形成するものと捉えて教育活動のあらゆる機会をとらえて育成を図っていく。

また、「国際化」が進む現代において、世界で活躍する人材の育成を念頭に「英語教育」「国際理解教育」を推進していく。特に、英語教育を進める上で「母国語」で物事を考えることの出来る「国語力」が重要であると位置づけ、自国の言語、自国の文化に対する学習を強化・育成する。

理系教育にも力を入れるため、100周年記念会館を実験棟(サイエンスラボ)として改築した。1階を多目的教室、2階を生物実験室、3階を化学実験室とし、基礎実験に対しての興味を持たせると共に実験の大切さを理解しスキルを養う。

【生徒像】

「気づく心」「考える力」「チャレンジ精神」を教育の3本柱とし、すべての教育活動を通して、次のような生徒を育成する。

- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけた品位ある生徒
- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 自主的、自律的な学習態度で学力の向上をめざし、異文化に触れることによって、21世紀を担う若者にふさわしい国際的な視野を持った生徒
- ※ 真の国際人は自国の文化に深い知識を持つとともに、自らのアイデンティティーを見失わない視点で教育活動を推進する。

2 中期的目標

附属中学は各部・各学年で「基本的生活習慣の確立」を目標とし、附属中学生にとっては学芸高校への進学、そして高校へ進学をしてからクラスを中心としてリーダーシップを発揮できる生徒となることを目標としている。

※ 外部評価機関の「授業評価、クラス経営評価、保護者からの評価アンケート」を実施・分析し数値を示して改善を図っていく。この数値は「プラス評価」－「マイナス評価」であらわされる「指数」となっている。

例えば、60指数は80%のプラス評価－20%のマイナス評価のことを指す。したがって「60指数以上」A、「59～20指数以上」B、「19～20指数以下」C、「19以下」Dと考えて評価・分析する。指数と書いていない数値については%の割合表記。

※ 校務分掌については高校と附属中学校は同一の組織として運営していく。

1 生徒指導を根幹に据えた学習指導と生徒のニーズに応えられる進路指導を推進する。

(1) 基本的生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的な生活習慣(座力)の確立」なくしてあり得ないという教育信念から昨年度に引き続き「気づく心の育成」「チャレンジ精神」「思考力の育成」に努め、自己管理能力(自制心)を高める。また、生徒を指導する教職員の資質を向上させるために機会あるごとに啓発を行って行く。特に附属中学校生徒については中学3年間で基本的生活習慣を確立させることが高校進学後の進路実現につながることを意識して指導していく。

ア、社会人としては許されない「遅刻」の防止に自ら努める「自己管理能力を育成」し時間を守ることの大切さを自覚させる。(自己管理)

イ、いじめを許さない学級、学年、学校「文化」を作り出し、生徒全員が安心して登校し学習できる学級・学校を目指す。(他者理解)

ウ、社会人として巣立つにふさわしい「服装・マナー」の向上に努め保護者から信頼される教育環境を作り出す。(教養育成)

エ、SNSやメールの使用上のマナーを含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションが図れるように指導する。(人権育成)

特に一人一台のタブレットを持たせているのでその正しい使い方を指導していく。

オ、教育裁判の事例を職員会議等で示して教職員の危機管理能力を高めるとともに「危機管理マニュアル」の作成を目指す。(危機管理)

(2) 学力向上と進路実現

学力向上の基盤は、生徒の「自己管理能力の確立なくしてあり得ない」という教育信念から教科学習、講習等様々な教育活動を通して時間の使い方を学ばせるため「学芸手帳」(バーチャルタイプ)の利用を促進し生活習慣を見直し時間の使い方の工夫から短期・中期・長期と計画的に学習活動(クラブ活動も含む)をする習慣を定着させる。

※ 生徒は「iPad」を所持しているが、アナログの「学芸手帳」に書き込みことにより一層自分のスケジュールの管理や目標に向かっての進捗管理・やるべきことを確認する To Do List を意識しやすくしている。

この「自己管理能力」を高める中で保護者・生徒の願いである「学力向上」「生活指導・社会力向上」という目標を実現できるように進路ガイダンスを行い、希望進路の発見・実現に寄与するため教育課程を編成(選択授業での対応や多様な講習の実施)するとともに「電子黒板(70インチの黒板上を左右に移動できる液晶型)」「i-pad(一人一台)」「Wi-Fi環境の整備」「スタディ・サプリ」「スタディ・サプリ・イングリッシュ」「管理自習室の設置」を利用した授業・講習を通して自学自習を推進し授業改善にもつなげていく。また、授業での利用だけでなくタブレット端末を利用した「職業調べ」「国際理解教育」(総合的な学習)を通してキャリア教育を進め将来展望に立った学習意欲の喚起を図っていく。

国際理解教育の推進のために英語4技能の育成を図るために英語授業だけでなく総合的な学習の時間における国際理解教育でネイティブ教員による授業を多く取り入れる。

「学習とクラブ活動」の両立をめざしながらも特に「英語教育」については重点を置き、中学校卒業段階で全員英検3級を目指す。

以上のように進路指導の基盤となる教員の授業力を高めていくため「生徒の授業アンケート」(年2回)と教職員間の相互授業参観等を実施し、授業内容の点検や教授法の改善の視点を知らせる。7月の調査で改善すべき点を示された多くの先生が2学期に改善を図る。

ア、教育のデジタル化に対応し「電子黒板」「i-pad」「スタディ・サプリ」「スタディ・サプリ・イングリッシュ」等の利用促進を行い授業改善に努める。

イ、グローバル化に対応した教育活動を展開するため英語教育の改善と国際理解教育の推進をさらに図っていく。

ウ、教員に対する生徒の授業アンケートを実施し「自己の授業の振り返り」を行わせ授業方法の自己点検を行うとともに授業力向上のための相互授業参観を行い「授業に対する信頼度」「学習効果への実感度」等を伸ばし生徒の満足度を高める。

エ、自ら課題を見つけ能動的に学ぶ習慣作りの一環として漢検・英検・数検などの資格試験受験の機会を増やす。

オ、生徒の多様なニーズに応えるために教育課程の編成、多様な講習の機会を設定し進路指導を充実させる。

カ、理系科目への興味関心を持たせるため、サイエンスラボでの実験を充実させる。

(3) 社会に貢献できる資質の育成

「少子高齢化社会」「国際化」「外国人労働力の流入」「AIの進化」などの社会情勢の中、生徒たちは、自立・自律の精神とともに社会の中で自己を活かす精神と実力をもった大人として成長していかなければならない。生きていく社会の中で「自分は何ができるのか」「どう行動するのか」を考える視点を持たなければならない。本校がクラブ活動との両立を勧めているのも教科の学習だけではなく、学校行事やクラブ活動、ボランティア活動等を通してこれらの資質向上を図れると考えているからである。

特に子どもたちの生活の基盤となる「クラス」において互いに助け合う精神の確立が大切だという認識のもとに教育活動を行っていく。

ア、ボランティア活動(大阪マラソンへのボランティア参加等)やセレッソとのオフィシャルパートナー契約、エコ活動、地域清掃活動を通して社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成する。国際ボランティアの取り組みとして公益財団法人大阪国際交流センターと提携し、留学生のイベント等にボランティアとして参加をする。また、大阪観光局とも連携し、観光局の取り組みにも参加している。

イ、クラブ活動を活性化させ、勝利をめざし努力する過程で持続力や耐性を養い、仲間と協力しあう姿勢(協調性)を育成する。

ウ、体育大会や文化祭等の行事を通して他者への思いやりや自分の意見を分かるように相手に伝える力(コミュニケーション能力)、調整力を育成する。

(2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で文化祭は中止。体育祭も高等学校との合同開催は中止とし、附属中学校のみの体育祭とした。)

エ、日々の授業に対する姿勢こそが「集中力を養う最適の手段」であり、学習とクラブ活動・奉仕活動・学校行事への取組等を両立する中でこそ「生活体験に基づいた生きた知識(智慧)を育成できる」という観点で教育活動を進める。

2 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

「校区という地域」を持たない私立中学校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえる。子どもが勉強や各種行事で活動する姿が見えるように情報発信の質を高めていくことが大切だと考える。その基盤となるのは子どもたちが担任をはじめ教職員を信頼し、学校生活を充実して過ごしている姿を家に帰ってきた子どもから保護者が感じることができるようにならなければならない。成績懇談や保護者集会を充実し、生徒や保護者が知りたい情報発信となるように情報の質を高めていく。

このために保護者対象のアンケートを行い、本校の教育活動の振り返りと改善点を明確にする。

ア、保護者の学校への信頼度(生徒・保護者へのきめ細かな対応と学校生活の充実)を高めていく。

イ、学校からの情報発信力を高め、ホームページの閲覧者数を向上させ、開かれた学校づくりを通して保護者との信頼関係を深める。

ウ、成績懇談や進路ガイダンスを充実し保護者・生徒に質の高い豊富な情報を発信し幅広い選択肢の中から進路を決めていくことのできる環境づくりに努めていく。

(2) 危機管理体制の確立

異常気象の表れと思われる局地的豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ来るかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を地域社会とも連携し構築していくことが求められている。特に大和川の水位上昇で帰宅困難となった場合の対応を関係機関と連携し構築していく。

ア、避難訓練(火災時の避難経路と地震時の避難経路の区別)を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備える。

イ、学校として帰宅難民となる生徒が出た時を想定した避難物資等の準備体制や保護者との連絡体制を整える。

また、日々の教育活動の中で「危険予見義務」と「危険回避義務」を教職員の使命と認識し、事故防止にも努める。万一の災害・事故に備えた保険についての知識を高め教職員賠償保険や第三者賠償保険等にも加入して教職員・生徒の保障に努める。

【自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

〈自己診断の結果と分析〉

1 基本的生活習慣の確立

保護者アンケート「生活指導は充実していて規範意識と自律性の育成に十分な効果をあげているか」という質問は附属中学校では76%の高い支持を受けている。この数字と比例して「この学校に入学させて良かった」という肯定回答が附属中で79%の指示となって現れている。保護者が本校の教育に期待している項目に「生活指導・社会力向上」(学習指導・学力向上について附属中で第2位)が入っているのと一致している。また、「本校の特色は何か」という質問で第1位が「子どもたちがいきいきと学習や部活に取り組んでいる」第2位が「クラブ活動と学習の両立」への評価が高いことから保護者の大半が子どもの学力向上・進路保障だけでなく本校の教育目標の「社会に貢献できる青年の育成」に賛同していることが分かる。この目標達成のために「遅刻」「服装」等のルールの遵守を指導目標としてきた。遅刻については、時間管理が出来なければならず、親に頼ってはだめだということを機会あるごとに該当生徒やクラス指導で訴え、「遅刻は他人の時間を奪う行為」と言う意識の定着を図って行く。また、附属中学校の生徒には「遅刻をしない」ではなく、「遅刻をしないためには何時に最寄りの駅に着いたら良いのか」「何時に家を出たら良いのか」というように具体的な生活計画を立てさせる。

遅刻・服装の指導だけではなく、挨拶をすることの大切さを話し、理解

【学校協議会からの意見】

1 基本的生活習慣の確立

- 令和3年度も新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の変種が次々に流行したことで、特に2学期以降クラス閉鎖が相次ぐなど、教育活動への影響は非常に大きいものがあつたと思います。基本的生活習慣を確立するためには、家庭⇄学校における規則正しい生活が大切ですが、新型コロナが社会活動のあらゆる局面で影響を及ぼす中で、生徒の生活リズムが崩れることも多かつたと思われます。常時マスクを着用しての行動、三密の回避など、社会生活上の制限も多い状況下で、「挨拶」に代表される基本的生活習慣を確立させるために、学校も保護者もご苦労が多かつたと思います。
- 保護者アンケート「生活指導は充実していて規範意識と自律性の育成に十分な効果をあげているか」という質問に対する76%の支持回答と、「この学校に入学させて良かった」という肯定回答が79%と、どちらの質問も高い数値での支持・肯定的回答になっています。この結果は附属中学校が掲げる「静かで落ち着いた学習環境の提供」という教育理念に合致していると思います。また、「本校の特色は何か」という質問で第1位が「子どもたちがいきいきと学習や部活に取り組んでいる」、第2位が「クラブ活動と学習の両立」への評価が高いことも、附属中学校の開設以来の教育目標とよく合致していて、附属中学校の教育の特色が保護者にしっかりと定着していることの表れだと評価できます。

と納得があつて自ら挨拶をするように話している。徐々にではあるが挨拶をする生徒の比率が増加している。

いじめ行為は、保護者アンケート「差別やいじめがなく安全で安心して登校することができる」との回答が78%と高い数値となっている。油断することなく早期発見を目指して5月と11月にアンケート調査・教育相談を行う。クラブ活動においても練習終了後、着替えた後のミーティングで生徒の様子を観察するように教職員を指導している。さらに、生活指導の事例を職員会議時にプリント配布し、日々注意喚起を教職員にすることで教員の生活指導力の向上にも努めてきた。

特に今の子どもたちは大人が想像する以上のストレスをためており、小さいいじめが引き金となって自死するに至ることを考えこどもの言動に注意を払うように啓発していく。

一方、学校現場を悩ませている SNS については、i-pad を利用した教育活動が実施されており、「ソーシャル・メディア・ポリシーの確立」に向けて今年度も方針を明確にして取り組んできた。しかし、全くなくなるということはなく、継続的にクラス、学年集会、全校集会で訴えていく必要がある。

2 学力向上と進路実現

附属中の基本方針は「学習とクラブ活動の両立」である。

「子どものやる気を引き出し、学習活動に前向きに取り組んでいる」という質問についても肯定回答が69%であり、「全科目にわたり学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている」という問い（保護者アンケート）についても69%が肯定的な回答となっている。生徒たちにとって日々の授業で大切なのは学力向上実感であり学力向上は勿論、相関が大きい「先生の好感度」をあげる必要がある。「先生の好感度」については、全体では64%（昨年59%）であり昨年からは5%上がっており、一昨年よりも良くなっている。昨年は2年生が54%と低くなっていたが、今年の3年生は62%と改善されている。逆に学力向上実感は3年生が全学年で最も低くなっている。

ハード面では、すべての教室に電子黒板が設置され、Wi-Fi 環境も整ったことで、全員がタブレット（i-Pad）を持つようにした。授業での活用や課題提出などで利用し、さらにスタディ・サブリ、スタディ・サブリ・イングリッシュを導入し、自学自習を促し学力向上を図っている。

新型コロナウイルス感染症の影響が大きいのが、積極的にオンライン授業や教育アプリを利用した。全員がタブレットを所持し、Wi-Fi 環境を整備していたことが大変役に立った。また、進路指導については、附属の中学校であるが併設の高等学校に進学する際も他校生と同様、高校受験を課している。「先取り教育をしない学校」である分、中学3年間の学習内容を定着させる取り組みを行う。特に受験を見据えた形で学習を行っていく。また、他校受験の生徒に対してもきめ細かく、進路相談を実施していく。

3 社会に貢献できる資質の育成

本校は、「勉強とクラブ活動の両立」を奨励している。これはクラブ活動を通して先輩と後輩の在り方、未熟な生徒にどのように教えれば向上するのか、そのためには自分はどういう背中を後輩に見せればよいのか等を経験する中で真の奉仕の精神が生まれるものと確信しているからである。高校生とともにボランティアサークルを組織し、大阪マラソンへのボランティア協力（今年度は中止）やセレッソ大阪のホームゲームボランティアにも多くの生徒が参加した。子どもたちの心に「奉仕の精神」を醸成できたと考える。クラブ活動についても運動クラブだけでなく文化部の活動も多くなってきた。附属中学校の利点を活かし、高校生とともに活動することで技術面だけでなく大きく成長をしてくれ、逆に高校生にとっても中学生がいることがプラスに働いている。行事について、文化祭は中止であったが中学校のスポーツ大会、体育祭を実施した。コロナ禍の制限がある中での開催であったが、学年を超えた一体感を創っていくことができた。

4 保護者への情報提供

保護者アンケート「学校のホームページは充実していて必要な情報を得ることができる」の回答は83%の肯定回答が得られた。また、保護者から見て「担任は相談しやすく、親切に対応してくれる」というアンケートは

○ 「いじめ行為」は、保護者アンケート「差別やいじめがなく安全で安心して登校することができる」との回答が78%の高い数値になっています。しかし、いじめは顕在化しないことも多いので、「自己診断」に書かれているとおり、「アンケート調査」・「教育相談」・「クラブ活動後のミーティング」など、あらゆる機会を捉えて「いじめの早期発見」を目指す姿勢を今後とも重視して戴きたいと思います。

○ 中学生段階でのいじめは、高校生にもまして、本人の自覚や悪気がないことが多く見られます。最近では、安易にネットへの画像や動画の投稿を行い、「他者のプライバシーを侵害する」、「他者の権利を侵害する」、また逆に「自分のプライバシーが暴露・侵害される」、「投稿を見た人達から攻撃を受ける」等の事例も多くなっています。中学生は、法的な知識や社会的相当性に関する判断能力も十分に備わっていません。「面白そうだから」とか、「別に問題ないと思った」という程度の理由で行なった投稿がいじめに繋がる事例が増えていると思います。自分自身がいとも簡単に「被害者」にも「加害者」にもなり得るネット投稿の「危険性（怖さ）」について、継続的に指導を行なって頂けたらと思います。具体的・実践的に学ぶという観点から、この分野の実務を担っている専門家の講演、研修会等を実施することも効果的ではないかと思えます。

2 学力向上と進路実現

○ 保護者アンケートで「子どものやる気を引き出し、学習活動に前向きに取り組んでいる」という肯定回答が69%、「全科目にわたり学習指導や充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている」の問いについても69%の肯定的回答になっている点については、生徒の「学力向上実感」と相関しており、「学力向上実感」は「先生の好感度」と相関が大きいと分析されています。先生に対する好感度が下がれば、生徒の授業への取り組み意欲は低下して行くことでしょう。授業の説明がそれなりに上手であったとしても、生徒がその先生の授業に対して「楽しい」「やる気が湧く」と思えないと、「学力向上実感」には繋がりにくいのは当然だと思います。

○ 「ハード面」で特筆すべき点は、ICT環境の充実です。高校と同じく、附属中学校のすべての教室には電子黒板が設置され、生徒全員がタブレット型端末を持っているという環境は大変優れていると評価できます。こうした電子ツールを授業での活用や課題提出で利用し、さらに「スタディ・サブリ」や「スタディ・サブリ・イングリッシュ」などの学習アプリを積極的に導入して、教育目標である「自学自習」を促していることは大変評価が出来ます。

3 社会に貢献できる資質の育成

○ 本校が「勉強とクラブ活動の両立」を掲げていることは、大変良いことだと評価します。クラブ活動は、同じ目標を持つ仲間との「共助意識」、厳しい練習に耐え地道な努力を続ける「忍耐力・継続力」、上級生になると下級生の指導やクラブ運営に率先して当たる「リーダーシップの意識」、勉強とクラブ活動のバランスを図る「自己管理の能力」など、将来、社会に出た際に必要とされる資質を磨くことが出来ます。また、ボランティア活動に力を入れているのも、大変良いことだと思います。「自己診断結果」では本校とパートナー提携をしている「セレッソ大阪」のホームゲーム・ボランティアに多くの生徒が参加することで、生徒達の心に「奉仕の精神」を醸成することが出来たと書かれています。自分のことしか考えない「利己主義」ではなく、他者や周囲に対する思いやりの心を育む素晴らしい取り組みだと評価します。

○ 附属中学校は、学校行事・クラブ活動ともに、高等学校に通う先輩とともに活動できる利点があります。公立中学校では実現が難しい点であり、これは附属中学校の教育の特色の一つだと考えます。同じ行事やクラブで高校生を手本とし、逆に高校生は附属中の生徒に対して教えたりすることで、附属中の生徒は「あの先輩のようになりたい」といった、身近で具体的な目標を掲げることが出来ます。少し年令の離れた先輩と後輩が互いに教え、学び合う関係性は、教育のあるべき姿の一つではないかと思えます。

4 保護者への情報提供

○ 保護者アンケートの「大阪学芸のホームページは充実していて必要な情報を得ることができる」の肯定回答が83%、「担任は相談しやすく、親切に対応してくれる」の肯定回答が89%、いずれも良い数値結果が出ていることについては、高く評価したいと思います。

<p>89%（昨年度 93%）、肯定回答を得ている。私学は、地域という「校区」を持たないため、学校から保護者への情報発信のあり方が保護者との信頼関係を築く上で非常に重要なものとなる。これらが「知り合いや親せきにこの学校を進めたい」という肯定回答を 79%（昨年度 82%）となって現れている。</p> <p>また「懇談会は適切な頻度で行われており、学校の様子をうかがい知る機会として機能している」という保護者アンケートの肯定回答が 89%（昨年度 88%）となっている。昨年度のアンケート結果と 1%しか変わっていないが、一昨年からは 11%向上している。以上から保護者との連携はまだ課題はあるとしても順調に推移しているとかんがえている。</p> <p>5 危機管理体制の確立</p> <p>本校は大和川以南からの通学者が多く、豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難となる生徒が 3 分の 1 を超える。このため、例年通り 4 月より各自に教室保管用の避難物資を購入し、その対応を図ることが出来た。この取り組みは今後も進めていきたい。</p>	<p>○ 附属中学校は公立中学校における、地域という「校区」を持ちません。「学校からの保護者への情報発信のあり方が保護者との信頼関係を築く上で非常に重要なものとなる」との自己診断がなされていますが、信頼関係を築くためのツールとして、附属中学校ではホームページを始め、カラー刷りで見易い「学芸新聞」の発行、オンラインの配信ツールである「さくら連絡網」など、目的に応じた様々な情報提供の媒体が用意されています。生徒・教員・保護者の三者間の意思疎通を円滑にすることは、教育目標を達成して行く上で不可欠の要素だと考えます。今後とも一層、学校の情報発信力を高めて欲しいと願っています。</p> <p>5 危機管理体制の確立</p> <p>○ ここ数年、自然災害の頻度、規模が拡大しています。登校途中の災害などは、生徒の安否・動静の確認に手間取るなどして不安が高まると思います。非常災害時は携帯電話も繋がりにくいケースがよくあるので、「LINE」や「さくら連絡網」などの連絡ツールも上手く活用して戴けたらと思います。</p> <p>○ 「自己診断結果」には、本校の通学圏の生徒は大和川以南から多いと書かれています。ここ数年、夏季の豪雨は常態化して来ており、大和川の氾濫・通行止めによる生徒の帰宅困難事態はいつ起こっても不思議ではありません。こうした事態に備えて避難物資を購入し、教室で保管する取り組みは高く評価できます。「災害は必ず起こる」という意識のもと、一層の危機管理体制の確立を図って戴きたいと思います。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 基本的生活習慣の確立</p>	<p>1 規律ある学校生活の確立</p> <p>(1) 規範意識と自立性の育成</p> <p>(2) いじめを許さない学校づくり</p> <p>(3) 教職員の学級経営・生徒対応能力の向上</p> <p>以上の三項目を達成する中で学習環境を整え学力向上をめざします。</p> <p>附属中学校の設立趣旨は子どもたちに「落ち着いた教育環境」を保障することにある。この教育目標実現のための教育活動を展開する。</p>	<p>附属中学校の設立趣旨にあるように「落ち着いた学習環境」を整え、私学の最大の教育目標である「学力保障」をする。</p> <p>クラス・学年の秩序は真面目な生徒たちによって支えられているという認識のもとに校則をきっちり守り、気づく心を持って困っている人たちに声を掛けることのできる生徒を育成する。</p> <p>(1) 風紀週間・下校指導・服装違反の点検を定期的実施し、生徒の規範意識向上を図る。</p> <p>○指導カードの発行による啓発</p> <p>(2) 「いじめアンケート」を実施し、担任・学年主任・生活指導部・管理職による点検で共通認識を図りいじめを許さない学校づくりに専念する。</p> <p>○いじめ対策委員会の実施</p> <p>(3) 学級の係活動や清掃活動を協力して行う雰囲気を作り真面目な生徒が損をしない、担任に不信感を抱かない学級づくりを行う。</p> <p>また、生徒の人間関係を深めクラスと言う仲間育成の場で担任のきめ細やかなリードのもとに子どもたちの良さを引き出すことのできる担任力を育成する。</p>	<p>(1) 現在の学校生活について「規則正しい生活を送れる」という指数を 60 以上とする。</p> <p>(2) 学校生活全般を通じて「この学校には、いじめは少ない」という指数を 60 以上とする。</p> <p>(3) 学級経営において</p> <p>①「生徒の態度や行動が間違っているときはきちんとして叱ってくれるし、感情的にならず生徒が理解できるように配慮してくれる」指数を 50 以上とする。</p> <p>②「生徒間のトラブルは少なくクラスメートを大切に作る風土がある」という指数を 60 以上とする。</p> <p>(4) 「良い友人が多い」という指数を 60 以上とする。</p> <p>(5) 担任は「クラス生徒全員と話す機会を持つとしている」という指数を 40 以上とする。</p> <p>(6) 担任は「ホームルーム活動が充実して行えるように工夫してくれる」という指数を 50 以上とする。</p> <p>(7) 「クラス全体で取り組む活動を通して一体感が持てるようにしどうしてくれる」という指数を 45</p>	<p>(1) 1 年 82、2 年 30、3 年 27 で全体としては 46（昨年度 48）となっている。1 年生にとっては初めての中学校生活で規則正しく生活を送れているが、2・3 年生にとっては改善を要する。中学生にとっては 4 月からの新型コロナウイルス感染症による影響が大きい。</p> <p>(2) 1 年 76、2 年 58、3 年 2、全体で 45（昨年度 12）と昨年からは大きな改善が見られるが、3 年生が昨年に引き続き大きなマイナスとなっている。担任を中心にきめ細かく見ていく必要がある。より高い質の意識向上を図るために「いじめアンケート」の実施と全体指導をしていく。</p> <p>(3) ①1 年 88、2 年 88、3 年 67、全体で 81 と高い数値は維持している。</p> <p>②1 年 32、2 年 52、3 年 27、全体で 37 である。(2) の回答と同様、3 年生で特に目標とされる指数 60 からは大きくかけ離れており、他人の気持ちを考えた行動・発言を継続指導していく。</p> <p>(4) 良い友人が多いという評価では満足度指数が 1 年 95、2 年 65、3 年 79、全体で 80（昨年度 57）と全体の目標が 60 を大きく上回り、昨年から大きく改善されている。</p> <p>(5) 1 年 47、2 年 60、3 年 47、全体で 51 と高い数値を示している。</p> <p>(6) 1 年 51、2 年 61、3 年 40、全体で 51 と高い数値を示している。</p> <p>(7) 1 年 62、2 年 24、3 年 0、全体で 29 と学年を追うごとに低くなっている。新型コロナウイルス感染症の影響で学校行事が出来ていないため、その期間に比例して悪くなっている。</p>

			以上とする。	
2 学 力 向 上 と 進 路 実 現	2 学力向上と進路実現に向けた取り組み (1) 生徒による授業満足度の向上 ○ 授業アンケート ○ 教育のデジタル化 電子黒板とタブレット利用の促進 ○ 英語教育の改善 (2) 自学自習の態度を養成し意欲的に学習する姿勢を身に着ける。 ○ スタディ・サプリ・管理自習室の利用促進 ○ 英検・漢検等資格試験受験の促進 (3) 希望進路の発見と実現に寄与する。 ○ 国際理解教育の促進 ○ 多様な講習の充実	附属中の設立趣旨は高校進学後につまづかない基礎学力の定着である。このため教師の授業力向上は本校教育の根幹をなすと認識している。 授業力評価のアンケートを分析すると授業を受けて「学力向上実感」があると評価された先生は「好感度」においても高い数値をあげています。この保護者の信託に応えるために次のような取組をおこなう。 (1) 授業力の向上をめざし、7月実施の1回目の授業評価で「何が評価を下げる原因となっているのか」「どの点を改善すればよいのか」を自己研鑽させ、2回目の授業評価で数値改善をはかっている。また、主任を中心に担任・教科担任がクラスの授業の状態を把握し、問題がある場合はすぐに改善策を打つ体制を整備する。 (2) デジタル教科書が急速に普及してくることに対応して全館整備が終了した電子黒板に加え、i-pad を利用し授業改善に取り組む。 コロナ禍でのオンライン授業、双方向学習を実施。(Google Classroom、ロイロノート、Zoom等を活用) (3) スタディ・サプリ、スタディ・サプリ・イングリッシュを導入し生徒の学習環境を整え自学自習を推進する。 (4) 英検・漢検等の資格取得者を増やしていく。	(1) 相互授業参観を実施する。 授業アンケートを実施し次の項目のプラス指数を向上させる。 (2) 教員の「好感度指数」を60以上とする。 (3) 「先生の授業を受けることにより学力や知識の向上を実感できる」という学力向上実感指数を60以上とする。 (4) クラスにおいて「授業時間は集中して授業を受ける生徒が多い」という指数を60以上とする。 (5) 「全科目にわたり学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果をあげている」という保護者アンケートの肯定的意見を60以上とする。 (6) 「子ども達のやる気が引き出され、学習活動に前向きに取り組んでいる」という指数を40以上とする。 (7) 「授業の理解度」という指数を60以上とする。 (8) 電子黒板を利用した公開授業、タブレットを使用した授業研究を年2回実施する。 (9) 英検3級以上の資格保持者75%以上とします。 (10) スタディー・サプリの初期設定ログイン95%を目指す。 (11) 英語教育改善の方策を打ち出す。	(1) 教育は指導者の力によるところが大きい。このため、指導力のある教員が新任教員を指導する体制の確立が急がれる。「授業参観レポート」を作成し相互授業参観を昨年度に続き実施したが、普段の授業で互いにコミュニケーションをとって点検しあい高め合うまでには至っていない。また、教科会で指導案等の点検・意見交換等もはかられていない。 (2) 教員の生徒からの好感度と学力は比例するものである。平均好感度は全国水準の76指数に対して本校は64指数となっている。昨年度から5上がっている。好感度は学力向上実感とも相関があるため、更なる改善が必要である。 (3) 学力向上実感は51指数(昨年度53)となっている。この2年間続けて若干の低下が見られた。学年を追うごとに数値が少しずつ下がっている。高校へ進学する際の学力向上が得られるように一層の努力を要する。 (4) 指数としては1年45、2年27、3年23、全体で32となっている。全体としては昨年と変わっていないが3年で昨年を下回っており、1年だけが良くなっている。授業の姿勢が学力向上には欠かせないため、早急に改善する必要がある。 (5) 肯定的な回答が69(昨年度63)であったのに対し否定回答が27(昨年度30)となっている。2年続けて数値は上がっている。保護者の感じ方に差があるため、きめ細かく生徒を見ていく必要がある。 (6) 肯定的意見に回答してくれた保護者は69指数となっている。昨年度と変化はない。 (7) 1年86、2年65、3年70で全体では73となっている。全学年とも昨年より理解度が上昇している。 (8) コロナウイルス感染症の影響により各教科・教員での利用について大きく改善された。使用しなくてはならない状況下でICT教育・タブレット利用については大きな進歩をしている。今後も一層効率的な利用をしていく必要がある。 (9) 英検3級以上の合格者は27%で目標ラインに到達できなかった。資格試験受験への意識付けと共に一層の努力が必要である。 (10) 本校の教育の柱となる「自学自習」を進めるためのスタディサプリのログイン数は100%となり当初の目標は達成されている。 (11) 週6時間の英語授業の内、教科書内容については4時間。残りの2時間についてはネイティブ教員と分担をしながら授業を進め、4技能に対応する英語教育を行っている。また、総合学習の中で国際理解教育を2時間実施し、様々な調べ学習や発表も行っている。
	3 社会性の育成 (1) 助け合う雰囲気あふれるクラスづくり (2) 部活動の活性化 (3) ボランティア活動の充実 (4) 学校行事の充実	学校教育の目的は、教科指導による学力の向上とともに多様な体験活動を通して集団の中で協調性や耐性、社会性を育てることも大切な使命である。本校が「両立」を合言葉に部活動を推奨している理由もここにある。 (1) クラス経営力を向上させるため学年会での相互点検・改善を進め	(1) ①「クラス全体の結束力が強く行事の中で達成感や一体感があると感じることが多い」②「困っているクラスメートがいれば誰に対しても手助けをする生徒が多い」という指数を60以上とする。 (2) 「部活動が盛んで、部活	① 1年62(昨年度54)、2年24(昨年度52)、3年0(昨年度68)、全体で29(昨年度58)指数という結果が出た。コロナの影響で学校行事が中止となりクラス全体での取り組みが出来ていない影響がある。期間が長くなり、学年を追って悪くなっている。 ② 1年56、2年45(昨年度36)、3年30(昨年度66)指数、全体で44(昨年度52)となっている。全体では2年続けて下がっている。昨年度の2年生の数

		<p>る。</p> <p>(2) クラブ活動の成績と普段の学校生活は密接に関係することを指導しクラブと学習の両立を図る。</p> <p>(3) ボランティア活動の充実 地域清掃を定期的に行い、ボランティアサークルでは大阪マラソンボランティア活動(中止)への参加やセレッソ大阪ホームゲームでのボランティア活動を進める。</p> <p>(4) 生徒の自主性を育てる学校行事を促進する。</p>	<p>動に関して熱心な指導が行われている。」という保護者アンケートの数値を60以上とする。</p> <p>(3) 「学校はいろんなことを体験させてくれる」という指数を60以上とする。</p>	<p>値が悪かったが引き続き3年生の数値が低く、「他人を思いやる心」を育てる教育が早急に必要である。全体ではB評価なので継続して教育していく必要がある。</p> <p>(2) 肯定回答72に対して、否定回答が19となっており目標である60を達成出来なかった。昨年までは達成できているので、今後改善する必要がある。</p> <p>(3) 1年82(昨年度50)、2年28(昨年度38)、3年8(昨年度8)、全体で39(昨年度44)となっている。コロナウィルス感染症の影響で学校行事が中止され体験が出来ない状況にあった。行事を体験している高学年になるほど当然数値が悪くなっている。一日でも早いコロナの収束が望まれる。</p>
<p style="text-align: center;">3 信頼される学校づくり</p>	<p>3 保護者との信頼関係の醸成</p> <p>(1) 保護者と信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページの充実 ○ 学芸新聞の発行 ○ 進路だよりの発行 <p>(2) 防災教育への取り組み</p>	<p>附属中学校の保護者は地元の公立中学校に通学させないで遠い私学に子どもを通わせていることを考えると保護者との連携は高校以上に密にしなければならない。家庭訪問に変わる「保護者集会」「学級懇談会」「授業参観」等を計画的に実施し、「わが子の様子が見える」学校にする。</p> <p>また、防災訓練等の安全生活に対する取組も緊急の課題であるという認識している。</p> <p>(1) 担任のきめ細かな対応 体罰・暴言のないクラス・クラブ経営と教科指導を確立するための職員会議等を通じた啓発活動を進める。</p> <p>(2) ホームページの充実 ニュース、トピックスにて更新内容を周知する。</p> <p>(3) 授業参観や進路・生活指導についての保護者集会を充実 教員と保護者の距離感を縮め話しやすい環境づくりを行う。</p> <p>(4) 保護者が学校行事に来やすい環境を作る。</p> <p>(5) 学芸新聞の発行</p> <p>(6) 防災教育の充実 ○避難訓練(火災時と地震時に分けて)の実施と防災備品の整備を行う。</p> <p>また、附属中学生は電車等で通学している生徒も多く、災害発生時に帰宅困難となることも想定し防災グッズを常備する。</p>	<p>(1) 「授業参観や懇談会は適切な頻度で行われていて学校の様子をうかがい知る機会として機能している」という保護者アンケートの肯定意見を60以上とする。</p> <p>(2) 「入学前と入学後の学校のイメージは子どもに聞くと良くなった。この学校に入学させて良かった」という数値を40以上とする。</p> <p>(3) 担任は「生徒に対する言葉遣いや態度は丁寧で適切であると感じることが多いし、保護者らも誠実に対応してくれる」という肯定回答を80%以上とする</p> <p>(4) 「学校は一人ひとりの生徒を大切にしてくれる」という数値を45以上とする。</p> <p>(5) 学校からの情報発信源となるホームページの閲覧数を20,000/月以上とする。</p> <p>(6) 大和川決壊や地震等災害による帰宅困難者対応を引き続き行います。</p>	<p>(1) 89%(昨年度88%)の肯定意見があった。肯定意見が目標に対して大きく上回っている。コロナの影響で授業参観も実施できていないがオンラインの配信などを実施した。保護者は状況を良く理解していただき肯定意見が増加しているが、甘えることなく工夫をしていく必要がある。</p> <p>(2) 保護者アンケートでは肯定回答が79%(昨年度82%)、否定回答が17%(昨年度13%)となり、肯定一否定の数値が62となっている。数値的には目標を超えてはいる。一昨年より大きく増加しているものの昨年より少し下がっている。今後もロイヤリティを更に高めていきたい。保護者はコロナ禍での取り組みを評価していただいていると考えられる。生徒の「入学前よりもイメージが良くなった」という指数が1年79、2年39、3年24、全体で48となっている。指数であるためB評価となっている。保護者と生徒の感じ方に差が生じている。昨年より大幅に改善されているが、更に生徒の評価を上げていく必要を感じる。</p> <p>(3) 生徒の回答としては肯定一否定の数値が1年30(昨年度52)、2年56(昨年度33)、3年23(昨年度60)で全体としても36(昨年度48)と3年間大きく改善してきたが、昨年に比べ低下してしまった。更に改善するように努めていきたい。保護者の回答については肯定回答が89%(昨年度93%)であった。厳しく指導する際の保護者と生徒の感じ方にギャップがあり、生徒に対しても独りよがりの指導にならないよう注意する必要がある。特に電話対応のきめ細かさが大切であり、家庭訪問のない私立学校では4月当初、懇談までに各家庭に担任から挨拶の電話を入れるように取組をさらに進めたい。</p> <p>(4) 1年86、2年58、3年37、全体で61(昨年度39)指数となった。本校の特色は丁寧できめ細やかな対応にあると考えている。昨年から大幅な改善がされた。しかし、学年を追うごとに数値が下がっているのが大きな問題である。より一層きめ細やかに生徒を見ていく必要がある。今後もこの方針を曲げないように教職員に啓発を続けて行くことが大切。</p> <p>(5) 学校のホームページが充実していると考えている保護者は72と高い評価となっている。ホームページの閲覧者数の月平均は5,578回であり、目標を大きく下回ってしまった。昨年度からも大きく減少しているので改革する必要がある。</p> <p>(6) 昨年度に続き災害避難物資もすべての生徒に配布し教室保管することができている。教室に配置さ</p>

				れた備蓄物資にいたずらをする生徒もなく卒業まで保管されている。この物資を使わなくても良い日々が続くことを祈りつつ。
	特記事項	1 ICT教育・オンライン授業の工夫などコロナ禍での学習環境を整えることが出来た。 2 学校危機管理マニュアルを作成して生徒の安全生活に対する教職員の意識の向上を図った。		